



芝川小だより

7月号 No. 4

令和8年6月30日

さいたま市立芝川小学校



それぞれの力を、みんなのために

梅雨空が続き、すっきりしない日が多いこの頃ですが、校内には子どもたちの元気な声が変わらず響いています。また、御多用の中、個人面談に御協力いただきありがとうございました。短い時間ではありましたが、保護者の皆様と直接お話しし、お子様の成長や御家庭での様子を共有する貴重な機会となりました。今後も保護者の皆様と連携しながら、教育活動を進めてまいりたいと思います。

さて、6月11日から FIFA ワールドカップ 2026 が始まりました。子どもたちからもよく話が出ており、懸命に戦いに挑む日本代表選手の姿は、多くの人の活力になっているのではないのでしょうか。

スポーツを見ると、私は出場選手やチームの活躍だけでなく、背景や裏話、日々の練習に目を向けることの方が好きで、雑誌記事や特集番組があるとつい見入ってしまいます。今回のワールドカップでは、日本の団結力にも注目が集まり、控え選手やサポートメンバーが献身的にチームを支える姿が報じられています。大きな声で応援する、水や氷を運ぶ、お互いをよく見る、一人ひとりに声を掛ける、欠場選手のユニフォームをベンチに飾る…等々、「ピッチだけではない、全員で戦っている」という言葉がよく聞かれますが、これほどまでに体现されている例は、そう多くはないのではないのでしょうか。今大会に関わる多くの人が、それぞれに悔しさや無力感、怖さ…など、さまざまな思いを抱えながらも前を向き、チームや仲間のためにできることを考え、懸命に大会に臨んでいることを知ると、私たちも心の底からの勇気や力をもらっていると感じます。

芝川小学校では、先日、6年生が大宮南小学校との親善球技大会で、バスケットボールの試合を行いました。勝っていても負けていても、試合に出ているときは懸命にボールを追いかけて、出していないときは大きな声で仲間を応援する姿が見られました。準備や片付けにも主体的に取り組み、一人ひとりがそれぞれできることに力を尽くしていました。また、1年生は、係活動を始めて1か月が経ちますが、先日公開された道徳の授業において、一人ひとりがクラスのために工夫して活動する様子が紹介されていました。

「日本代表チームと同じだな」と思うのは大げさかもしれませんが、「誰かのために自分にできることをしっかりとやることの素晴らしさ」を学校生活の中で実感し、それを実践していける人になってほしいと願いながら、1学期のまとめを行っていきたいと思います。

《J リーグ発足当初から見続けてきた大人の皆様》 森保選手や名波選手をはじめ、レジェンドと称される選手たちが日本代表監督・スタッフとして関わっている姿に、胸が熱くなりますね。共感していただけますか？ 笑



地域の皆様、防犯ボランティアの皆様が、登下校中の見守りだけでなく、通学路での落とし物を届けてくださったり、具合が悪くなった子、ケガをした子を介抱したりしてくださったことが何度もありました。この場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。